

クトでも近くで利用しやすい、歩いて行ける施設のニーズもあります。一方で、今までのようにある程度人が集まれる施設も必要です。そのあたりをどう整理していけばいいのでしょうか。

川嶋 地域にはたくさんの施設があります。公民館やコミュニティーセンターなどを使って市民の皆さんはいろいろな活動をしています。こういった活動を行政の方も制度として支援しているわけです。ただ、津市は多くの自治体が合併したので、全部一律に行うのは難しい。旧自治体の歴史や文化があるので、そのたくさんあっていいやり方をどう実現していくか、きめ細かい行政を展開していくにはどうしたらよいかの考え方として、こういう公共施設を有効活用して地域の課題を自分たちで解決できる仕組みを作っていくことが必要だと思います。

市長 一定の場所が必要ですが、それが縦割りで使われるのではなく、いろいろな形で使われ、そういうステージをどう作っていくかですね。例えば出張所は出張所として造るというよりも、いろんな機能を組み合わせた場所として使うということですね。

川嶋 地域には集会機能を持った施設としてコミュニティーセンターや集会所などがあります。それから集会機能を持ち、他の用途で使っている公民館や隣保館などの施設もあります。また、文化施設もそうです。本来の目的に支障のない範囲で集会目的としても使える庁舎や、保健センターも検診をしていないときは十分に集会所として使えます。津市の状況を見ると、このような施設が全体で約400あります。これを全部地域の皆さんが使いこなせれば、新しい施設を造らなくても十分に集会できる場所があります。こういった施設を使って、地域の皆さんが地域の課題を自分たちで解決していく新しい地域経営スタイルをぜひ作ってください。また、その時に公共施設の再編を手掛けると思います。ただ、気を付けてもらいたいのは、公共施設を地域の皆さんに任せますよと提案すると、押し付けられたというイメージになりかねません。そこで、新しい仕組みを作って、行政から地域に移譲していく一方、施設の費用についてはしっかりサポートする。自主的な活動を支えるための人・もの・お金・情報を



提供していく仕組みもしっかり作って、ハード・ソフトの両面から地域経営のスタイルを確立できれば、全国にもまれに見る新しい地域づくりができます。

市長 公共施設の再編を公共施設にずっと着目して考えていましたが、川嶋先生のお話を伺うと、地域をどう経営していくか、につながるがよく分かり

ました。人口28万の市民のために、そしてその子や孫のためにこの地域がどうあるべきかということも含め、きちっと見据えながら計画を作っていくなくてはならない。私も非常に責任重大ですね。

川嶋 市長が率先してやるというのも大事ですが、ぜひお願いしたいのは、市職員や市民の皆さんも、新しい感覚で意識改革をしないと、大きなシステム変更はできません。これからは造った施設をどう使って、行政課題をクリアしていくのか、その手段としての公共施設なので、今ある公共施設を賢く使い、将来の市民の皆さんに残していけるかが大きな課題になってきます。津市で新しい仕組みを作り、大きなうねりを実現していただきたいと思います。

市長 市民の皆様からもこの公共施設等総合管理計画策定に向けてご意見をお寄せいただきたいと思います。市役所職員は計画作りにさらに力を注いで全力で取り組みます。また、市議会の皆さんにも公共施設等総合管理計画の案ができた段階でご覧いただいて、そういった意見も踏まえて作り上げてまいります。

課題を自主的に解決する 新しい地域経営スタイル